

浜田商工会議所 七月号 青年部レポート

島根県商工会議所青年部
連合会第一回連絡会議・
通常役員総会

島根県出雲市

平成二十八年六月十一日(土)、島根県商工会議所青年部連合会(県青連)第一回連絡会議・通常役員総会が出雲Y E G主催で島根ワイナリーにて執り行われました。浜田商工会議所青年部からは西元会長をはじめ八名で参加しました。

その中で、浜田Y E Gの県青連への参加意識は少し低調気味のように感じます。前年度、浜田Y E G主催での県青連開催のおりにはたくさんの他単会の方に参加頂き、お礼参りをしなければならぬところ、八名と少ない人数での参加となりました。単会内部での事業も大切ですが県連事業に対する積極的参加も忘れてはなりません。そして、その目的が異業種交流、地域間交流による新規取引、新規事業開発による地域経済の活性化や、自己啓発、研鑽にあることは言うまでもありません。

(総務委員会
委員長 佐々木 裕美)

中国ブロック会長会議

岡山県玉野市

平成二十八年六月十八日(土)、岡山県玉野市にて開催された平成二十八年度中国ブロック商工会議所青年部連合会並びに日本Y E G中国ブロック会長会議に参加しました。中国ブロックは四十六単会あり、総会員数三千六百八十五名となっております。

この度の会長会議では各単会会長をはじめ、副会長、専務理事の方々も参加され大勢での会議となりました。グループディスカッションでは各単会での問題点や改善点、今後の目標など話し合い、最後にグループごとに発表する形式で行われました。私のグループは七単会でのディスカッションでしたが、各単会会長に与えられた制限時間を大幅に超える発表、話し合いができました。色々な意見が出るなか、共通して出る言葉は「事業に対しての参加率」でした。各単会の

会員数ですが、少ないところは二十名弱、多いところは三百名を超える単会もあります。どこも「事業に対しての参加率」は五割から六割程度でした。全ての事業に参加することは非常に難しい事です。皆さん仕事があり、家庭があり、プライベートがあります。業種によつては夜のお仕事の方も多くおられます。私は仕事、家庭が最優先だと思っておりますのでご無理を言うつもりはございませんが、せつかくのチャンスがもつたのではないかと感じます。その日その場での出会い、得た情報や知識、心を繋ぐ想い、これらは参加しないと感じることのできない経験です。その経験を地域や自社に持ち帰り、広めて生かすことで総合的活性化を図り盛り上げていくことが私たちの使命です。より多くの会員にこの想いを伝え、感じて経験してもらい、次のステップへと繋げていければと思います。その為には私たちが一丸とな

り地域の為、未来の為、そして未来を担う子供たちの為に青年部を通し、時代を先駆ける先導者として日々研鑽に努めていかなければと改めて感じました。

最後になりますが、私は皆様のお蔭でこのような大きなチャンスをいただきました。このチャンスを無駄にしないよう、今後の多様な事業に参加させていただき多くの事を学び持ち帰り、次代へと繋ぎ、そして皆様にお伝えしていこうと思えます。

(会長 西元 裕司)

六月例会

商工会議所大ホール

平成二十八年六月二十三日(木)、浜田商工会議所大ホールにて、六月例会を開催しました。本例会は、二部構成にて行い、一部目はBB大鍋フェスティバルの代替え地案について、二部目は環境に配慮したBB大鍋リユース食器採用について、全体の場で協議しま

した。

一部目につきましては、浜田市役所水産振興課の戸津川様をお招きし、なせ浜田漁港周辺でイベントが出来なくなるのかという説明をしていただき、その後、新たな開催地案について、地図や資料を開き、参加メンバー全員が真剣な眼差しで協議していました。

二部目につきましては、浜田市役所環境課の斉藤様をお招きし、昨今の浜田市のゴミ排出事情と、浜田市が積極的に取り組んでいるリユース食器について説明していただきました。質疑応答の後に、BB大鍋配食用の食器として、採用していく方向で可決しました。

その他、BB大鍋フェスティバルポスターのコンペや、玉野商工会議所青年部の皆様による中国ブロック大会のPR等、大変内容のある例会となりました。

(Innovation
委員長 尾村 充)

委員長 尾村 充